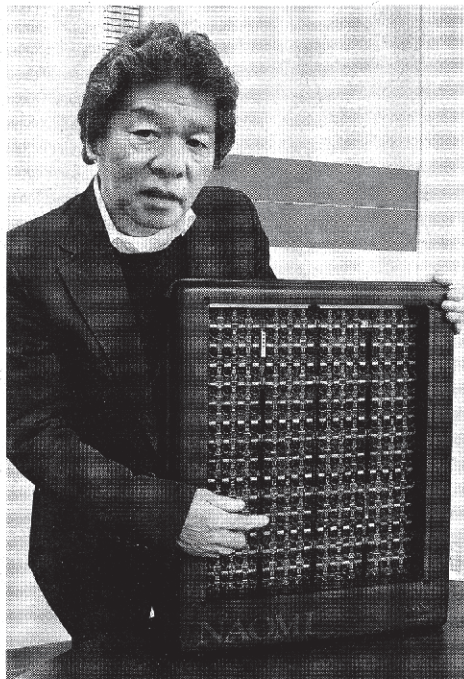


## 中小**エクセレント**カンパニー

アールエフ

(医療機器製造、長野市)

1993年創業。従業員175人。売上高75億6400万円(2009年5月期)。売上高の半分が輸出で、うち9割が米国向けだ。



「できない」と言わない

CCDカメラや無線技術を使った医療機器の製造・開発を得意とする。2005年に発売したレントゲン

撮影用のデジタルX線センサーは、国内市場でシェア(占有率)トップだ。

デジタルX線はフィルムや現像液がいらす使いやすが、価格が数千万円と高額だった。そこで、安価なCCDカメラを約200個組み合わせて撮影する方式

を考案。300万円台にまで抑えた。すると一般の診療所に普及。カメラの感度を上げて撮影時のX線を減らし、「体に優しい」レントゲン撮影も実現した。

創業当初は、映像を無線で送信できるCCDカメラを販売していた。工業用だったが、鉄道模型に乗せて遊ぶ人が現れ、これを見た米国人の歯科医から口の中を撮影できる小型カメラの

開発を依頼された。

同様の機器は数百万円もしていたが、約20万円で売り出すことに成功。瞬く間にヒットし、医療分野への進出のきっかけとなった。

「依頼に対して、できませんと言わない」ことが丸山次郎社長(62)の信条だ。「今後も体によさしい医療機器を開発する」と、張り切っている。

(長野支局 香取直武)